

(様式1)

学校番号 (小・中 31)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 (富塚中) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 学校、家庭、地域が一体となって目標・課題を共有し、共に成長できる未来を創る。
- 富塚の地域性を生かした学校運営の実現に向け、持続可能な協働体制を目指す。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

前年度末に承認した学校運営の基本方針について、年度当初に新校長から改めて説明を受け、内容の確認と共有を行った。
委員は基本方針への理解を再確認し、共通理解をもって今年度の協議に臨むことができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

授業参観や発表会参観を通して、生徒の主体的な学びや成長の姿を共有し、学校の目指す生徒像「主体的に学ぶ生徒の育成」に照らし合わせて熟議を行うことができた。
グループ協議を通して、富塚の地域性を生かした学びや、学校と地域が連携して生徒を支える在り方について、成果と課題を具体的に整理することができた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

協議結果については、会議録やコミスクだよりを作成し、学校ホームページやさくら連絡網を通して保護者・地域へ情報発信を行った。またコミスクだよりについては、自治会の回覧版を通して周知を図った。一方で、協議会の役割や取組の意義がより伝わるよう、発信内容や方法については今後も検討が必要である。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- 学校、家庭、地域が一体となって、生徒の学びを支える協働体制を強化する。
- 学校運営協議会の活動内容の周知を図り、地域との連携を深める。
(学校・家庭・地域が連携し、富塚の地域性を生かした取組を通して、生徒が主体的に学び、安心して挑戦できる環境づくりを進めていく。あわせて、協議会の取組や生徒の活動が地域に伝わり、双方向のつながりが深まるような情報共有の在り方を検討していく。)